

日本の敗戦から75年。

戦後に生まれた国民が8割を超え、

戦争を知らない世代には他人事になりつつあります。

家族を残し、戦場に散った尊い命。

当時の体験を語り継ぐ人が年々少なくなる今、

二度と同じ過ちを犯さないためにも、

先人の歴史に目を向け、体験者の肉声に触れ

後世に語り継がなければなりません。

75年前の夏、多くの国民が絶望し

打ちのめされました。

しかし、懸命に前を向き

「生きるため」に立ち上がります。

時代に翻弄された与論開拓団が満州で迎えた敗戦。

その翌年、第二の故郷を求めて田代盤山に入植します。

忘れることができない昭和21年7月18日。

この日をきっかけに田代と与論はつながり、

新たな歴史を刻むこととなります。

昭和44年6月7日に結ばれた両町の姉妹盟約。

それから半世紀もの長きに渡り交流は続きます。

あまり語られることのない開拓団の歴史。

しかし、語り継がなければならない真実があります。

失われた多くの尊い命、

先人たちが築いた歴史の上に、

私たちは生きています。

満州から引き揚げた与論開拓団のうち165人が新たな故郷を求めて田代大原を開拓。
不十分な道具で少しずつスギや雑木を伐採し、株間を山鍬で開墾しました。